

福祉文教常任委員会委員長 寺平 秀行

1 岐阜県 白川町議会

「インクルーシブ教育について」

発達支援対策監が設置されている。インクルーシブ教育を機能させるため、キーパーソンが必要とのことで設置された。

インクルーシブ教育とはなにか、定義づけするのに苦労した。「包摂」との意味合いの反意語を考えた。「排除されない」教育と定義した。

発達障害で支援が必要な子について、支援を考える際家庭環境も必要な要素である。保護者の心理状況や状態も把握して保育園から小学校に指導監を通じて引き継ぎをしている。

2 愛知県碧南市 複合施設コリン 施設見学

「地域共生社会方針に沿った共生型モデル施設の取り組みなどについて」

「0歳から100歳まで、誰もが住みやすい街」を目指した複合施設として開設された。スタッフを沖縄から多く採用している。外国籍労働者を雇うよりまず日本国の発展を願うため。

ガラス張りの構造を意識した。親の意識として発達障害の子を目立つところで過ごさせたくない、また障害を持つ子も他人がいると落ち着かないということがある。しかし、成人して社会に馴染むためには人の目も気にならない事が重要と考えた。現状、慣れれば問題なく過ごしている。

3 滋賀県 米原市

「米原駅前デマンド交通について」

米原駅前にて現地確認を行った。デマンド交通の乗り場は地面にペイントで乗り場と書かれた簡単なものだった。その他のアナウンスはないものの、混乱の気配がないことから市民には定着していると考えられる。

4 滋賀県 日野町議会

「障がい者福祉。地域共生社会ビジョンのあり方について他」

「地域課題は地域で解決！」を理念に日野システムを構築した。前任の町長が福祉の街を作ると熱心なまちづくりを行った。

（社会福祉法人）わたむきの里福祉会の取り組みについて、企業就労のためなど企業のパイプづくりに力を入れている。400社と友好関係があるが開拓に熱心な女性職員が一人いる。

全体を通じて

岐阜、愛知、滋賀と広範囲かつ他分野に渡って視察を行ったが、視察先に共通なのは事業を推進するに当たってキーマンが存在するということだった。とある視察先では事業推進に当たってまずキーマンを探したとの

ことであった。事業内容を視察するつもりであったが、人が大切だと思った。

なお、日野町議会は全議員が平成 16 年に箕輪町に行政視察で訪れており、その際当時 18 人の全議員が応対したとのことだった。また、かつて日野町の近江商人が箕輪町の松島宿のヤナギヤと定宿の契約をしていた記録が残されていたとのことで歴史的なつながりも確認できた。